

日本大学工学部

校友会報

第67号

平成16年3月1日

目 次

ごあいさつ	2
平成15年度第46回通常総会報告	3
「母校を訪ねる会」第23回目を開催	4
クラブ・その他	10
支部活動	11
校友レポート・がんばり記	15
CAMPUS NEWS	16
校友短信	18
應援団復活	22
就職指導委員会からのお願い	23
校友会からのお知らせ	23
通常総会・母校を訪ねる会の案内	24



教室棟（地上9階地下1階） 平成18年4月から使用する教室棟完成予想図



日本大学工学部長
小野 沢 元 久

ごあいさつ

2004年の早春を迎え、校友各位の皆様には益々ご壮健のこととお喜び申し上げ、平素の温かいご支援に対しましては、心より深く感謝いたします。

世界も日本も多事多難のうちに新しい年を迎え、国際紛争は新たな思想・教育・民族の対立の様相を深め、国内では今もなお政治・経済の混迷が続いています。

さて、わが国の国立大学は、今春から独立行政法人として発足することになっており、明治初年以来、国の近代化の旗印として発展してきた文教政策は、大きな変革を求められております。私立大学もまた国内外の要因、とくにグローバリゼーションが加速する中で、二極分化が急速に進んでおり、これからの私立大学はそれぞれの建学の精神、教育理念をもとに一層の教学の実をあげることが求められております。

日本は戦後長らく、画一的で「十人一色」の教育を行ってきました。いわゆる「レディメイドエデュケーショ

ン」であり、個人主体よりも組織主体でありました。しかし、現代は個性を大切に考える時代。学生一人ひとりのニーズに対応できる「オーダーメイドエデュケーション」が必要だと考えています。

このような背景の中で、工学部はグローバル社会に通用する高度な専門知識と技術を擁した人材の育成、学内に整備した「次世代工学技術研究センター」と「環境保全・共生共同研究センター」など大学シーズをいかに地域に還元するか。これらは普遍的なテーマであり、また、文部科学省に採択されたサイバーキャンパス事業も推進し、工学部の学生だけではなく高校生や他大学の学生、社会人を対象にした教育ソフトの充実も図りたいと思っております。今後どういう方向に進んでいくかを改めて考える時期にきている、まさに画期的な時です。今こそ建学の精神を振起し、更に歩みをすすめ、工学部の長期戦略に磐石の基礎を確立すべき年にしたいと思っております。そのためには教職員をはじめ、校友会の皆様のご理解とご協力が是非とも必要であります。

最後に、校友会の益々の発展と、校友各位の皆様のご健勝を祈念し、ご挨拶といたします。



校友会会長
加藤 木 研

ごあいさつ

平成15年度は、校友の皆様には如何な年でしたか、経済も激的な変化もなく給料もすえ置き、若くは減額という企業も多かったのではないのでしょうか、そんな中平成16年度は良い年になってもらいたいと願っております。

この様な社会、経済状況の中で、校友会は会費の徴収方法が変り、平成15年は赤字会計となり、本部から多少応援頂きました。しかしこの金は返済しなくてはなりません。平成16年は徴収した会費と支出がとんとんとなり、平成17年度に返済の予定です。平成18年度からは少しは楽になると考えています。校友の皆様の声を全て事業化

する事は無理ですけど、徐々に資金の余裕が出来次第事業化に向けてがんばりたいと考えております。校友会の大きな事業の一つであります会員管理についてお願いがあります。校友の皆様が、住所、職業の変更がありましたら是非、校友会の事務局の方へご連絡下さい。

又昨年も誌上を借りてお願いしましたが、本部校友会の正会員を募集しております。昨年度の実績は約45名程です。他学部に比べ非常に少ないです。是非正会員になって下さい。正会員は年額8千円です。正会員になっていただくと、その子或いはお孫さんの日大への入学について校友会長が各学部の学部長へ推薦する事になっております。

最後になりましたが校友の皆様益々の御健勝と発展を祈念してあいさつとさせていただきます。

平成15年度 第46回通常総会報告

平成15年4月26日(土)、午後2時より、日本大学工学部校内の50周年記念館において第46回通常総会が開催された。

加藤木研会長の開会の辞に始まり、議長に小山田克己氏(土5回卒)、議事録署名人に石井和樹氏(土13回卒)および盛武建二氏(土17回卒)、書記に田中敏夫氏(建19回卒)および田村賢一氏(機30回卒)が選出されて議事に入った。

村田事業部長担当から報告第1号・平成14年度会務報告、伊藤経理部長から承認第1号・平成14年度一般会計収支決算および承認第2号・平成14年度特別会計収支決算の報告があり、これに対して渡邊信一会計監査(土21回卒)から監査報告がなされた。さらに議案第1号から第3号の平成15年度の事業計画および一般会計並びに特別会計収支予算が両部長より提案され、各々に質疑討論の後、賛成多数で承認された。

総会終了後、55号館8階のスカイレストランにおいて、小野沢工学部長を始めとし、本部関係者、各学部校友会長のご臨席のもとに出席者数100余名に達する盛大な懇親会が開催された。



平成14年度一般会計収支決算書

歳入		単位:円 △…減			
款項	種目	予算額	決算額	比較増減	付記
会費	1 終身会費	9,000,000	8,900,000	△100,000	
	2 入会金	18,000,000	17,830,000	△170,000	
	計	27,000,000	26,730,000	△270,000	
繰越金	3 前年度繰越金	3,263,777	3,263,777	0	
	計	3,263,777	3,263,777	0	
雑入	4 租金利子	20,000	8,794	△11,206	
	5 名簿代金	60,000	60,000	0	
	6 雑収入	256,223	240,000	△16,223	
	計	336,223	308,794	△27,429	
合 計		30,600,000	30,302,571	△297,429	

歳出		単位:円 △…減			
款項	種目	予算額	決算額	比較増減	付記
事務費	1 給料手当	4,900,000	4,871,549	△28,451	
	2 保険料	400,000	399,671	△329	
	3 交通費	800,000	850,000	50,000	
	4 旅費	20,000	0	△20,000	
	5 交際費	900,000	856,800	△43,200	
	6 需用費	250,000	146,446	△103,554	
	7 備品費	0	0	0	
	8 印刷製本費	300,000	245,700	△54,300	
	9 通信運搬費	600,000	453,186	△146,814	
	10 修繕維持費	50,000	0	△50,000	
	11 分担金	650,000	670,000	20,000	
	12 雑費	100,000	20,000	△80,000	
事業費	計	8,970,000	8,513,352	△456,648	
	13 組織対策費	1,600,000	1,634,440	34,440	
	14 会報発行費	6,000,000	5,195,344	△804,656	
	15 会員管理費	2,000,000	2,513,465	513,465	
	16 下宿対策費	10,000	0	△10,000	
	17 式典費	3,100,000	2,722,769	△377,231	
	18 母校訪問費	670,000	513,413	△156,587	
	19 負担補助助費	3,000,000	3,000,000	0	
	20 新規事業費	300,000	100,000	△200,000	
	21 電算化事業費	300,000	3,213	△296,787	
会議費	計	16,980,000	15,682,644	△1,297,356	
	22 総会費	700,000	510,135	△189,865	
	23 役員会費	300,000	240,035	△59,965	
	24 連絡協議会費	350,000	408,350	58,350	
	25 旅費	2,100,000	1,666,210	△433,790	
雑出金	計	3,450,000	2,824,730	△625,270	
	26 職員退職給与積立金	200,000	196,560	△3,440	
積立金	計	200,000	196,560	△3,440	
	27 積立金	0	0	0	
予備費	計	1,000,000	0	△1,000,000	
	28 予備費	1,000,000	0	△1,000,000	
合 計		30,600,000	27,217,285	△3,382,714	

歳入 額 30,302,571円
歳出 額 27,217,285円
差引 残高 3,085,285円を翌年度へ繰り越しとする。

平成14年度職員退職給与積立金特別会計決算書

歳入		単位:円 △…減			
款項	種目	予算額	決算額	比較増減	付記
繰越金	1 前年度繰越金	6,023,605	6,023,605	0	
	計	6,023,605	6,023,605	0	
雑入金	2 一般会計より繰入金	200,000	196,560	△3,440	
	計	200,000	196,560	△3,440	
積立金	3 職員退職給与積立金	80,000	84,240	4,240	
	計	80,000	84,240	4,240	
雑入	4 雑収入	6,395	1,218	△5,177	
	計	6,395	1,218	△5,177	
合 計		6,310,000	6,305,623	△4,377	

歳出		単位:円 △…減			
款項	種目	予算額	決算額	比較増減	付記
引当金	1 職員退職引当金	6,310,000	5,158,485	△1,151,515	
	計	6,310,000	5,158,485	△1,151,515	
合 計		6,310,000	5,158,485	△1,151,515	

歳入 額 6,305,623円
歳出 額 5,158,485円
差引 残高 1,147,138円を翌年度一般会計に繰り入れるものとする。

「母校を訪ねる会」第23回目を開催

第23回『母校を訪ねる会』は恒例の北桜祭（工学部祭）の最終日に当たる平成15年10月26日（日）に祭りで盛り上がるにぎやかなキャンパスで開催されました。本年は天候に恵まれ、樹木が少し紅葉し始めた学園に多くの校友の皆様が集いました。

この会は、日々発展している工学部の現状をみていただき、さらには校友との絆を一層深めていただこうと、工学部ならびに工学部校友会の共催で発足したものです。第1回『母校を訪ねる会』は、昭和56年11月3日に行われ、その後、毎年、間断なく開催されております。

今回ご招待・ご出席者数は第1回卒業生・8名、第11回卒業生・44名、第21回卒業生・77名、第31回卒業生・39名、合計168名のみなさんに参加していただきました。

当日は古田先生銅像前で、先ず記念写真を撮り、引き続き行われた50周年記念館（ハットNE）での懇談会では小野沢学部長や加藤木会長の挨拶、学部の近況報告などがあり、想いで話などに花を咲かせて大いに盛り上がりました。

最後に母校と校友の更なる発展を願って、応援団員の皆さんと共に校歌を斉唱しました。前日は同級会で友人と、当日はキャンパスで恩師、先輩、同窓に会い心ゆくまで語り合うことができたと思います。いつの日か再会を約束して散会となりました。

次回は、平成16年10月24日（日）に第24回『母校を訪ねる会』を開催いたしますので多数の方々の参加をお待ち申し上げます。



第23回 母校を訪ねる会（第1回卒業生、第11回卒業生） 平成15年10月26日



第23回 母校を訪ねる会 (第21回卒業生) 平成15年10月26日



第23回 母校を訪ねる会 (第31回卒業生) 平成15年10月26日

50年目の邂逅

松 塚 勇 (電気1回卒)

顧みれば、未だ終戦から間もない昭和23年冬に郡山市内で、日大第二工学部学生募集の立看板に出会ったことから始まります。当初、電気工学科の入学生は30名程でしたが、土木に次いで多い方でした。校舎は海軍航空隊の兵舎を改修したものでした。電気工学の授業の中に機械の材料力学なども含まれ、今から考えれば幅の広い勉強が出来たと思います。同級生の殆どは列車による通学でしたので、登校時などには永盛駅から珍鳥(貨取)橋を経て大学まで長い列になり思わぬ人間関係も出来ました。

3年終りまでこの状況でしたが、4年になるとき俄かに東京の工学部へ行くことになり20名程が移り、東京と郡山に分れて受講することになってしまいました。就職先は関東圏が多く、県内は故本間磐先生のお世話になることが多かったです。

28名が卒業しましたが、現在までに6名が他界し8名が不明となり、14名になってしまいました。このうち5名が本年度の訪ねる会の前日に校友会のお世話で郡山ビューホテルアネックスに集まり旧交を暖めることが出来たのは幸いでした。

H君は海外工事関係、K君は、電力機器関係、T君は通信関係で、あと2人は教育関係でしたが、お互い40年以上も勤務に従事して来たと思うと同級生ながら立派に見えました。

翌日の「母校を訪ねる会」当日、H君は北心寮跡の石碑前に暫し佇みながら感慨に耽っていました。学生時代の寮生活に思いを馳せていたことでしょう。

そして各人各様に去来するものを胸に、母なる大学から次の再会を約して帰路につきました。



「母校を訪ねる会」に参加して

吉 田 康 雄 (建築11回卒)



先日は40年ぶりの母校を訪ね、変貌振りに今様「浦島太郎」を感じました。私達が学んで(?)居た頃はRC(鉄筋コンクリート)造は現在の2号館のみで、後は木造の陸軍兵舎ばかりでしたね。(注:下線部新井の加筆)

私は、実は10月23日の日に福岡より仙台市の青葉区に有る実家に独り住んでいる母の元に帰宅していました。庭の剪定などで日を過ごし、25日に郡山に向かい、駅に着いた途端やはり、あまりにも変わった駅前の風景にビックリ。何時間か駅周辺を歩き回りました。学生の頃に出入りした飲み屋・喫茶店・映画館・食堂など探して見ても跡形もなく40年の月日とは恐ろしい物だなど思いました。駅のロータリーに戻ると「日大方面」の文字が眼に入り大学に向かいました。バスは当時とは異なるルートで走って20分チョットで到着。正門の立派な姿にまたビックリ、往時はあの辺りは林から畑に抜けるような形で、道路も舗装などされておらず、凸凹道でしたね。大学祭の最中で各サークルのテントは若い人々で賑っていました。女子学生の数も随分多く、活気が感じられたところで郡山に向かいました。

磐梯熱海温泉「金蘭荘」についた途端受付にて顔が浮かびませんで申し訳ありませんでしたが、次々に現れる懐かしい顔々に心が洗われる様でした。

翌日大学の構内では、あれだけ広大な敷地内を案内していただき本当にアリガトウございました。会場では他の学科の仲間・応援団・空手部などの連中にも会うことができ旧交を暖める事が出来ました。

最後になってしまいましたが、幹事さんの重要な仕事をご苦労さまでした。会費も別徴収もなく、当初の予算ないで納めていただき感謝致します。

母校を訪ねる会に参加して

星 一 以 (電気11回卒)



卒業して40年ということで「母校を訪ねる会」の案内を頂ました。校友会事務局からは、これを機会に同級会を開きませんかと同期卒業生の住所を頂きました。同級会は東京を中心として何度か開催されておりましたので、東京近在の有志に連絡を取り発起人会を結成し、小生が現地連絡係を担当しました。60歳を過ぎますと、定年退職とその後の仕事のこと、自分の健康のこと、親の世話などで家を2日間空けるのは無理など、遠方から集まるのは大変です。そんな中で、本郷忠敬先生、渡辺清未先生ご出席のもとで、懐かしい級友たちと同級会を開くことができました。

同級会を開くに当たって問題点が出ましたので、今後のための参考になればと思って整理してみました。校友会から頂いた名簿は卒業同期生の名簿でした。正直のところ初めて見る名前もありました。先輩たちの名前です。先輩からは昨年行ったので今年は遠慮するとの連絡でした。一方、東京で同級会の世話をやられた幹事からは、名簿から落ちている人がいるから追加して欲しいとの連絡です。同期入学でも卒業年度が違っていると卒業後40年者に出される校友会からの案内者名簿には載っていません。それで同期入学生にも「母校を訪ねる会」の案内を出して下さるようお願いしました。お蔭様で、同期入学生と同期卒業生合同の同級会を開催することができました。快く対応して下さいた校友会事務局各位に感謝申し上げます。

40年ぶりに母校を訪ねた者は構内で困っていました。地図を見ても自分が今どこに居るのか分からなくて歩けないということです。特に母校を訪ねる会の受付場所が分からないという卒業生が大半でした。14号館入口の5

差路に居る守衛さんは、受付場所を聞いていないので聞かれても教えられなくて申し訳なかったと言っていました。北桜祭の真っ最中ですので、いろんな看板が立ち並んでいますので、一層分かり難かったのだと思います。母校を訪ねる会の開催要項には受付の場所は書いてありますので、真剣に探せば分かるでしょうが、新しくなった母校の中で自分の知っている目標物が見付からなくて困っていたようです。2号館前の交差点(バス停留所あったところ)に行き、やっと脳裏にあった基準点を見つけたようでした。

そんな苦労がありましたが、何年経っても同級生はよいものです。学生時代を語り合って若さを取り戻し、母校の発展に接し、満足な1日を過ごすことができました。来てよかったとつぶやく者もありました。閉会后、級友たちをバス停まで送り、再会を誓い合って別れました。この準備をして下さった校友会の役員の皆様方に改めて御礼申し上げます。

30年目の同級会

高 原 一 啓 (機械21回卒)



今回30年目の「母校を訪ねる会」に先立ち、横田君より校友会から同級会開催の要請が入り、前回幹事をやった私の所に話が回ってきて、改めてときの早さを実感しました。そこで郡山周辺にいる級友と会合を持ち、前回の経験を生かし、かつ今日の厳しい社会情勢下で、多くの級友の参加を臨むにはどうしたらよいか、と知恵を絞り研修会館での手作りの会としました。また、この研修会館に決めた理由の一つに、我々学生時代にこのすぐ隣にある「金山温泉」で、何度もコンパを開いた思い出の場所にもなっていたからです。

今回の同級会には総勢35名で、一色忠夫先生を始め菅野宗和先生、佐藤光正先生、柳沼福夫先生、遠く四国高

松からおいで頂いた西村祖一先生にはご夫妻で、そして校友会からは加藤本会長にもご出席頂きました。級友では遠くは九州・中国・四国と全国各地から集まり、今回30年ぶりに会う級友は13名で懐かしさも一入でした。私達も大学を出て30年が経ち50代となり、健康に留意して40年目、50年目と会に参加できるように心身共に鍛えなくてはと思いました。

そして最後に亡くなられた級友もあり、全員で哀悼の意を表しました。

クラス会と母校を訪ねる会に参加して

阿 部 眞 一（電気21回卒）



昭和48年卒後、2度目の参加になりました。

平成15年10月25日（土）クラス会は10年（平成5年）ぶりに月光温泉で盛大に開催いたしました。

参加人数は20余名で前回のメンバーが大半を占め、遠く沖縄より駆けつけたメンバーが座を大いに盛り上げてくれました。

10年前と比べるとそれぞれ職場では重責を担う立場になり風貌は多少変わりましたが、杯を重ねる内に30余年前の学生に戻ってしまい、瞬く間に一夜が過ぎてしまいました。

翌日、学友とキャンパス内を散策して感じた事は、体育会の襟高の学ラン姿が見かけない事、「オッス！」の声が聞こえてこない事、女性が多い（当時は稀少価値）のにびっくりした事等々。当時にタイムスリップし、思い出話に尽きる事なく懇親会の会場である食堂に向かいました。

入口近くなると当時流行していた由紀さおりのヒット曲「夜明けのスクエアカット」の最初のフレーズ「ルルルルー・・・」が脳裏に浮かび、おもわず口ずさんでしまい青春時代、希望膨らんでいたあの頃をふと思い出さ

せてくれました。

ホイットマンの詩に「青春とは年齢ではない・・・」改めて、希望を捨てないで生きていこうと奮起をうながしてくれました。

懇親会の折、応援団再結成の話があり体育会の有志が即席で披露してくれました。

「フレーフレー日大・・・」腹の底から響く声を久しぶりに聞きおもわず身震いしたのを昨日のように思いおこしました。

本当の意味で「母校に帰ってきたんだなあ！」と実感した次第です。

3度目の10年後（平成25年）再会を楽しみに、希望ある人生に感謝！

母校を訪ねて

草 加 昌 則（機械31回卒）



あっというまの20年でした。

ここ数年、毎年校友会会報が自宅に届くたびに母校を訪ねる会を楽しみにしておりました。

10月26日当日、大宮駅にて大学4年の時、同じアパート同級生川和君に偶然会うことができました。東北新幹線の中でお互いの現況を話し、次から次へと大学時代の思い出話が盛り上がり、あいつはどうしたかな、あいつは今何処で働いているかな〜きっとみんな今日あえるよと期待をふくらまし新幹線は郡山に到着。到着すると、立派になった駅前ターミナルきよろきよと二人で仲間の姿を探しましたが、それらしい人は見つからずタクシーにて我が母校に急行。到着すると（北桜祭）開催中でもあり、にぎやかな雰囲気の中すばらしい施設の、55号館（情報研究棟）、本館を見ながら会場であります（ハットNE）に到着。受付を済ませ、さて我々の仲間は何

人來てるかな、チェックすると機械31は6人、31卒業生全員でも40人、いやいや思ったより少なく、さびしい思いが致しました。恒例の記念撮影を行い（ハットNE）での親睦会では面識の薄かった仲間とも20年前の授業、先生、行事の話を次から次へとする内にすぐに打ち解けて行き、皆さん各分野でエンジニアとして活躍していて、私もがんばる気力をもらいました。

また、在学中の北桜祭時、お叱り、ご指導を戴きお世話に成りました、佐藤光正先生、田嶋元学生課長にお会いできて懐かしくうれしく感じました。あの時のご指導が今の私の原点になっていると思います。

小池アパートのみんな10年後は必ず再会できる様調整しましょう。

「母校を訪ねる会」に参加して

小 川 雅 之（電気31回卒）

「母校を訪ねる会」に参加して来ました。隣県に住んでいますので、郡山には卒業後何度も来てはいますが、キャンパス内に入る機会が無く数年前から楽しみにしていました。しかし、日にちが近づくにつれ旧友と再会できるという期待感よりも、例年出席率が数%の様でしたので、知っている人が誰も来ないのではないかと不安で一杯でした。

当日シャトルバスを降り正門から「北桜祭」会場を通り、手をつないでキャンパス内を歩く若い男女の学生諸君を見て、20年前にはなかった光景だと思い受付を済ませると、そこには同級の岡村稔君、唐沢仁君、機械科の矢澤正行君、土木科の後藤一高君の懐かしい笑顔があ

り昔話に花が咲きました。写真撮影後の懇親会でも名前と顔が一致しなかった中川武広君、戸谷次延君、浜田進君とも哲学の講義であった「三段論法」の話などで盛り上がり楽しい時を過ごせました。

ただ、残念だったのは私と仲の良かった旧友の多くは、同じ昭和54年に入学したのですが諸事情（？）により、第32回または第33回卒業生となり今回の対象外となってしまう会えなかった事です。「対象外の方もどうぞ」とはありますが中々参加し辛いのではないのでしょうか。対象者を「第31回卒業及び昭和54年入学」にするとか、ホームページで「何月何日現在の参加予定者」を見る事が出来るとかすれば、もっと多くの方々が参加されるのではないかと思います。

今回の訪ねる会では前日に磐梯熱海温泉での同窓会を行う計画が有る様で、酔った勢いで私が幹事をやる事になってしまいました、その際はよろしくお願い致します。



ク ラ ブ ・ そ の 他

第4回総会は、現役も参加し、 演奏の応酬で盛り上がった

管弦楽部OB会広報担当 桃 井 忠 男 (電気12回卒)



演奏をする指揮・橋本宗弘と左からVn桜井・橋本・清水・佐藤・菅田、Fl飯沼・森、Va杉坂・中林・川本、P佐藤、Vi浜尾・曾木のニューオルケの仲間と右端は現役

第4回総会は10月25日(土)午後6時から郡山市の『郡山ビューホテル・アネックス』の13階“ラ・ベルコロンヌ”で行われた。世の中の景気は回復していないけれど、青春時代の思い出多き地・郡山に30年ぶりの仲間も含め計26名の会員・特別会員が都合をつけて参加した。どの顔にも学生時代の若さが溢れて輝いていた。

総会は、平成14年度活動報告と平成15年度活動計画の同意、決定が行われた。引き続き行われた懇親会や演奏会では、思い出話も交えながら時の経つのを忘れて過ごし、午後9時に閉会し、更に二次会に流れていった。

総会には現役4名もオブザーバーで参加し、恒例の合奏では時間が足りないぐらいに盛り上がった。更に今年は『日本の歌』から「早春賦、夏の思い出、小さい秋みつけた」の3曲をフルートパートをはじめ各楽器の音色を生かしてOBの羽鳥勝美さんが編曲、プロのヴァイオリニスト・千秋佳子さんが補作で協力してくれて、器楽演奏をバックに参加者が合唱するという演出を行った。参加者からは「参加した満足度がアップできた」と評判を呼んだ。

二次会では「郡山地区にもOB・OG仲間音楽活動を開始したい」との発言も聞かれ、もしかしたら来年の総会では「東京音響」と「郡山音響」の独奏や合奏が実現するかもしれない。数年後には「関西音響」「中京音響」創りに発展するかも知れないと、一同夢を膨らませた。

参加したOB・OG仲間の中には、器楽演奏を続けてい

る人も多いが、合唱や絵画の世界で活躍している人もいた。時間を調整して初代指揮者・鳥居正積先生の奥様(90歳)を激励に伺うと、「皆さんもそれぞれ素敵な才能で人生をエンジョイしているようですね。私も二人のお弟子さんとお琴の勉強をしています。」と逆に励まされた。

今回参加できなかった仲間も是非、来年の総会には参加して、元気の交響曲を奏でてほしい。

Dare To Care

(見て見ぬふりをしない)

活動標語の日本ガーディアンエンジェルス
と共に歩く



アケアン&エンバイア ステートワイン㈱ 代表取締役
工学部校友会常任幹事 ニューヨーク桜門会会員

八 木 宏 純
(工化14回卒)

私は生後まもなく戦争の空襲を受け、母は自らの生死を賭け私の命を救ってくれた。「助けられた命をどう良く生きるか」はその後の私の死生観に繋がる。

母校卒業後に米国のニューヨークに弟と飲食店を出店後、東京・赤坂に不動産業を含む酒類製造販売会社を経営。平成には本当の意味での日本の良さを理解して欲しいと、友人と「日本祭り」を当地で開催。この時にガーディアンエンジェルスの小田啓二さん等の警護を受けた。

「見て見ぬ振りをしない」活動の無償行為に、私の中のあるなにかが反応した。帰国後自社の事務所や電話を提供し、日本支部設立の土壌を作った。

NPO法人の認定を受け全国規模に成長し、私は柏支部を立ち上げ、柏駅周辺防犯協会の副会長や故郷の銚子市危機管理懇談会委員、千葉県安全街作り有識者懇談会委員として、ニューヨークの八店舗を往復する日々を送っている。

支 部 活 動

北海道支部活動報告

北海道支部支部長 岡 本 繁 美（土木16回卒）

4月18日、北海道支部設立30周年記念の総会及び懇親会を札幌ロイヤルホテルにて、校友会本部より加藤本会長、大学より倉田工学部次長他のご出席をいただき、昨年度開設した全道8支部の協力により、北は稚内、東は根室、南は函館など全道各地から140数名の出席を得て盛大に開催されました。

懇親会では、特賞、郡山往復ペア旅行券が2本他、はずれの無い抽選会・遠く千葉より友情出演の第31代応援団長田口氏（建築学科51回卒）による日大節の演舞など、『桜の仲間の和と絆』を深め、無事終了しました。尚、次回は下記のように開催することが決まりました。後日案内を送付しますのでよろしく。

記

日 時：平成16年4月28日（水）

総 会 18時30分

懇親会 19時

会 場：札幌ロイヤルホテル

札幌市中央区南7条東1丁目

Tel. 011-511-2121

9月26日、函館で昨年の帯広に引き続き道南支会の『ミニ同窓会』を30数名の出席で開催しました。北海道支部より役員が6名出席、大いに盛り上がり、翌日は大沼レイクG. Cで親睦ゴルフ大会を行いました。尚、次回の『ミニ同窓会』は、9月に道北支会で旭川の予定です。『札幌までは遠いけど旭川なら』と言う仲間、是非出席して下さい。



北陸支部活動報告

北陸支部副支部長 笠 井 隆（建築17回卒）



校友の皆様方には、益々御活躍のこと心よりお慶び申し上げます。

さて、第三回定時総会は去る八月二十三日に新潟駅前「ホテルサンルート新潟」にて開催しました。当日は、本部から村田事業部長の御出席をいただき、日大を応援する新しい校友会正会員制度の説明があり、これからは、大学が校友に何をしてくれるかではなく校友が大学のために何が出来かを考える時代ですと熱っぽく話され、約四十名の出席の人達に加入を呼び掛けられました。

本年度の主な活動内容は、本部校友会・工科系（工・理工・生産工・薬）支部長会・工学部校友会総会・父母会参加等まで、各学部、支部の活動状況から多くを学び参考になりました。総会終了後、懇親会は父母会と合同で行いました。父母の方々とは日大節が出るなど和やかに御話し、有意義な一時を過ごす事が出来ました。

秋には第二回の懇親ゴルフコンペを企画しました。各地から十八名の参加があり、好天にも恵まれ、楽しい一日でした。優勝は田中宣男さん（建築十二回卒）で実力を十分に発揮され、二年連続、支部長杯を手に入れました。

北陸支部は創立して四年目です。

鈴木支部長が挨拶で話されましたが、会員の大部分が民間です。官庁の人達への参加を働きかけ、輪を広げる事がこれからの支部の課題と思いますので、何卒今後ともよろしく御願い申し上げ活動報告と致します。

関東支部活動報告

関東支部 支部長 児 玉 憲 明 (土木14回卒)

関東支部は首都圏全域に甲信を加え16,000余名の校友が活躍している地域です。現在1都4県校友会が中心と

なり、母校との連絡、校友間の交流会、母校教職員の講演、校友間の懇親会等積極的に活動しています。また関東支部は都・県校友会間の連絡調整役となり円滑な校友会活動も支援しています。

年間活動記録

日時	行 事 名	開 催 場 所	出席者数
3/25	卒業式及び関東支部連絡会	日本大学経済学部	15名
4/12	神奈川県校友会役員会	クルーズクルーズ	15名
4/26	工学部校友会総会	郡山パットN E	6名
5/10	長野県校友会役員会	ホテル花月	8名
5/21	関東支部懇話会	千葉 かめや	45名
6/20	埼玉県校友会役員会	埼玉 文化亭	9名
6/29	長野県校友会総会	Mウイング	29名
8/30	工科系校友会支部長会議	工学部校内54号館	12名
11/21	2003日大フェア	東京全日空ホテル	20名
1/24	関東支部新年会	赤坂酒菜茶屋	29名
2/22	神奈川県校友会総会	横浜スカイビル	60名

東海支部活動状況報告

東海支部副支部長 川 口 幸 三 (土木19回卒)

校友の皆様方には益々ご活躍のこととお喜び申し上げます。

平成15年度支部活動は、例年と同様懇親ゴルフコンペを春秋の2回〔6月11日 稲武カントリークラブ 参加者8名、11月24日 富士カントリー可見クラブ 参加者10名〕開催しました。春の稲武では前泊し、猪鍋に舌鼓を打ち、素晴らしい自然環境の中で和気あいあいと懇親ゴルフを楽しみました。

支部総会は、7月18日(金)に名古屋駅前のホテルキャッスルプラザで、校友43名の参加で開催しました。

川村支部長の開会の挨拶に引き続き、来賓の校友会手塚公敏副会長及び藤本洋情報工学科教授の両名の方から校友会の状況や学内の近況報告を含めたご挨拶を頂き、参加者一堂懐かしく且つ興味深く聴かせていただきました。

続いて、年間活動報告があり、原案どおり承認され、総会は終了しました。

その後の懇親会では、先輩、後輩のわけ隔てなく、

夫々が親しく楽しく、酒を酌み交わしながら語らい、最後には日大校歌で、明日への元気と意欲をお互い心に秘めお開きとなりました。

さて、30周年を経た当支部会員数は、愛知、岐阜及び三重県下で約1,400名に達する状況であります。総会参加者数を見ても大変少ない状況であります。

愛知県は、2005年開港予定の中部国際空港、開催の愛・地球博等で『今、日本で一番元気だ。』と言われておりますが、我々校友を取巻く社会環境は大変厳しいものがあります。

そのような状況を少しでも善くするため、情報交換の(お互いやる気をおこす)場として、昨年末より毎月第3水曜日に月例会(懇親会)を開催しております。

より多くの校友の参加を望んでおります。

東海支部静岡支会『静岡アカシア会』設立

東海支部静岡支会 大 澤 俊 幸 (土木27回卒)
『静岡アカシア会』会長

平成15年8月3日(日)、工学部懇談会にあわせ東海支部静岡支会『静岡アカシア会』が村田事業部長御出席のもと設立されました。

なお『静岡アカシア会』は会員相互の交流・親睦、後輩諸君の就職支援と共に工学部へ優秀な学生を進学させたいと従来から努力してまいりました。その結果、工学部特待生には毎年静岡県出身の学生が出るようになり、さらには多数の高校生が工学部に進学するという実績が出来ました。これについては校友会の職域支部である『アカシア教育研究会』静岡支部と密接な連携を取りたいと考えております。工学部出身の教職（小・中・高）関係者は全国に480名そのうち工業高校にはなんと400余名が在職しており、これは日本一の数字であります。このような基盤がありますが大学冬の時代を迎え各大学も学生募集には最大限の努力をしており、また工学部卒業生には母校工学部以外の他大学において教育・研究に活躍されている方々が50名を越すというあまり知られていない特色があります。このような事情のもとに優秀な学生を母校に送り込むことは何と言っても学校当局の理解なくして実現は出来ませんので一層のご理解を学部当局

にお願いしたいと思います。

『アカシアの森』に学んだ校友の母校愛は日本大学他学部には決して負けない強いものがあります。幸い『静岡アカシア会』は若輩の会長を諸先輩が強くバックアップしていただいているという強い基盤があります。これに応えるべき努力をいたすことをここに宣言をいたしまして、静岡支会『静岡アカシア会』発足の報告にかえさせていただきます。



人情報などについて話し合った。

採用状況を中心に情報交換しあう参加者には、静岡市黒金町のホテルアソシア静岡タワーミナ

就職情報など
OBらと懇談
静岡で日大工学部
日本大工学部は三日、
同学生徒の父母と卒業
生、教職員三者による懇
談会を静岡市黒金町のサ
テルアソシア静岡ターミ
ナルで開いた。県内では
初開催。
懇談会ではこれまで新

五方所で行つてきた。本年度は香川興振輸出で忙しい、依然として厳しき就職に関する情報交換、卒業生を通じての学校と企業のパイプづくりなどで三者の連携を進める。

県内や隣県から父母、卒業生で構成する校友会、教職員合わせて約百人が集まり、飲食を共に

静岡新聞 平成15年8月5日

平成15年度四国支部総会を終えて

四国支部事務局 牧 野 隆 次 (建築22回卒)



四国支部総会は、去る7月26日高松市内ロイヤルパークホテルで開催しました。昨年度より家族会として愛媛・高知からの校友も含めて大変なごやかな会になっています。総会では会則の一部変更と役員改選が行われ事務局案が承認されました。

懇親会では北岡支部長〈化14〉の挨拶に始まり加藤木
校友会会長に大学の現状を説明して頂きました。濱田副
支部長（高知分科会会長）〈機5〉の乾杯の発声により
ジャズの生演奏（S. W. J. O. はニューヨークでの
演奏経験もある地元のジャズバンドです。）が始まりま

した。ノリの良いリズムに全員思わずスイングし、早谷川君〈建31〉の巧みな司会のもと家族紹介では大爆笑の一場面もあり和気あいのうちに会が終了しました。谷久顧問〈土8〉の閉会の挨拶で次回の再会を約束し解散しました。

第23回九州支部総会報告

九州支部支部長 湯 村 筑 後 (建築10回卒)
九州支部事務局長 脇 山 亨 治 (建築29回卒)

本年度の総会は、準備委員会の中でここ数年会員の参加不足で役員会やゴルフコンペ、川下りなどに会費から事業費としての出費をするような事業もしていなかったもので、開催場所を変えるなどの意見も出ていましたが、やはり寄り付きやすく、毎月第三木曜にアカシヤ懇親会を開催している、福岡市中央区天神の平和楼で10月31日(金)18:30～総会19:00より懇親会で始まりました。毎年の事ながら今回も校友会より加藤本会長にご足労いただき、懐かしい郡山の話や日大本部の件、工科系校友会の

件などお話いただきました。

総会の参加者もだんだん減り30名ほどとなり、役員や学年幹事、学科幹事など揃える件や会費の有効活用なども検討するようにと、貴重な意見も出ていました。九州支部が郡山を思い出し、懇親を深め、ますます発展するように頑張っていきたいと思います。

・39年卒建築中村勝重氏 (九州支部副会長)

・44年卒土木青柳茂敏氏

以上の方々がお亡くなりになりました。謹んでお悔やみ申し上げます。



日本大学校友会工科系連絡会：工科系支部長会開催

平成15年8月30日(土)、日本大学工科系校友会連絡会および工科系支部長会を開催校友会である工学部校友会の企画のもと、工学部校内の54号館において、午前11時30分から加藤木 研開催校友会長の挨拶で始められた。

参加総数は47名で理工学部校友会11名、生産工学部校友会10名、薬学部校友会7名、工学部校友会19名の各会長、副会長、常任幹事が参加し、下記の3件の協議事項について忌憚なく討議された。

- 1) 日本大学校友会会費徴収の件について
- 2) 個人情報保護法と名簿の管理体制について
- 3) その他

引き続き13時から連絡会メンバーと工科系校友会支部長の総参加者数132名による合同の支部長会が開催された。まず、工学部校友会会長・加藤木 研氏、生産工学部校友会会長・鬼丸三也氏、薬学部校友会会長・山内 盛氏、理工学部校友会会長・安達昭郎氏から各校校友会の現状報告をいただき、次いで各支部長から支部の近況報告がなされた。会議は積極的な意見交換がなされ、有意義に討議が行われた。その後、15時から工学部校内の55号館スカイレストランで懇親会が催された。小野沢元久工学部長、安西階二郎

薬学部長、小嶋勝衛理工学部長、石井 進生産工学部長代理の各氏から挨拶を賜り、高松雄行工学部事務局長の乾杯で懇親が始まった。懇親会は盛大かつ和やかに進み16時30分で閉会した。最後に工科系校友会連絡会および工科系支部長会に出席された諸氏に感謝申し上げます。



校友レポート



『衆議院議員3期目を向えて』

衆議院議員 佐藤 勉

勉（土木23回卒）

昨年晩秋の総選挙では、栃木県第四選挙区は全国的に注目をされた選挙区であったことから大変厳しい選挙戦でしたが、皆様方のご支援により、お陰様で三度目の当選の栄を得ることが出来ました。

特に、日本大学校友会、桜門会の方々には、格別のご好意と力強いご支援を頂き、殊のほかお世話になりました。この紙面をお借り致しまして心からなる感謝を申し上げます。

日本大学は創立以来、建学の精神に基づき、幾多の試練を乗り越えて、わが国の近代国家としての成長、発展の歩みに応じて、国家社会のために真に寄与できる人材の育成に務め、多くの傑出した人材を各界に送ってきました。政界でも現在、与、野党約30名もの桜門会の国会

議員が国家国民のために、それぞれの立場で活躍しております。

私の議員としての役職は、国会対策副委員長と言う立場と、会社にとえれば取締役会とも言える「総務会」の一員として、党務で大粒の汗を流しております。国会では総務委員会理事、農林水産委員会及び法務委員会に所属し、難しい法案審議に取り組んでおります。近年技術系の雇用も厳しくなっており、有志議員の役所の方々も交えて懇談会を持ち勉強中でもあります。

先の選挙で、わが国も二大政党時代へと大きく変化しはじめました。こんな時こそ政権政党の議員として、時々刻々変化する内外の情勢を見極め、わが国の指針の誤りのなきよう努力いたします。

若葉マーク がんばり記

『第51回全日本剣道選手権大会』に出場して

日本大学東北高等学校教諭 田崎 智 春（電気44回卒）

剣道日本一を決定する本大会も半世紀を向かえ、第51回全日本剣道選手権大会が平成15年11月3日(月)、日本武道館にて開催されました。学生時代（日大工学部体育会剣道部所属）から憧れ、常々目標としてきた本大会も今年で4年連続出場となり、周囲からの期待も相当なものでした。

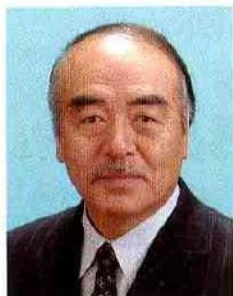
『自分のペースで。自分のスタイルで。』を目標に試合に臨み、私の予想をはるかに超え、あれよあれよで準決勝までコマを進めることができました。準決勝では緊張の糸が切れ、相手に包み込まれるような形で敗退しましたが、私自身大変良い経験、勉強となりました。

学生時代に培ってきたものが現在も活かせる環境に大変感謝しております。工学部および東北高校の今後益々



の発展の為、微力ながら両剣道部の指導、そして私自身も精進していきたいと思ひます。

小野沢工学部長が副総長に選任



小野沢元久工学部長が2度目の副総長に選任され、9月1日付けで発令を受けました。任期は平成15年9月1日から平成16年8月31日まで。担当は前回と同じく、学務（入試を含む）、総合学術情報を担当します。

教室棟いよいよ着工

創設60周年記念事業として工学部教室棟および課外活動施設の建設が決定しました。

主要な教育施設となる教室棟は、地上9階・地下1階（鉄骨造・一部鉄筋コンクリート造）延べ床面積20,172.47㎡の規模の建物（下図および表紙参照）となります。グループ学習室・教育支援センター等を付帯施設として有する本建物は、今後の飛躍的な教育効果と教育研究環境の充実が期待されます。

この事業の推進にあたり、「工学部60周年記念事業資金募集」に関わる募金事業が次のとおり発足します。

1. 事業総額 70億円
2. 募金目標額 3億円
3. 募金額 一口 1万円（なるべく二口以上をお願い）
4. 募金期間 自 平成16年6月1日 至 平成21年3月31日

校友諸兄におかれましては諸事情ご賢察の上、本事業の目標達成のために特段のご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。



教室棟鳥瞰図



教室棟鳥瞰図

正門が新しくなりました

正門が平成15年9月17日に完成しました。従来の塀は万年壁から見通しの良いフィンスになり文字通りの開かれた大学となりました。



▲昭和20年代の正門



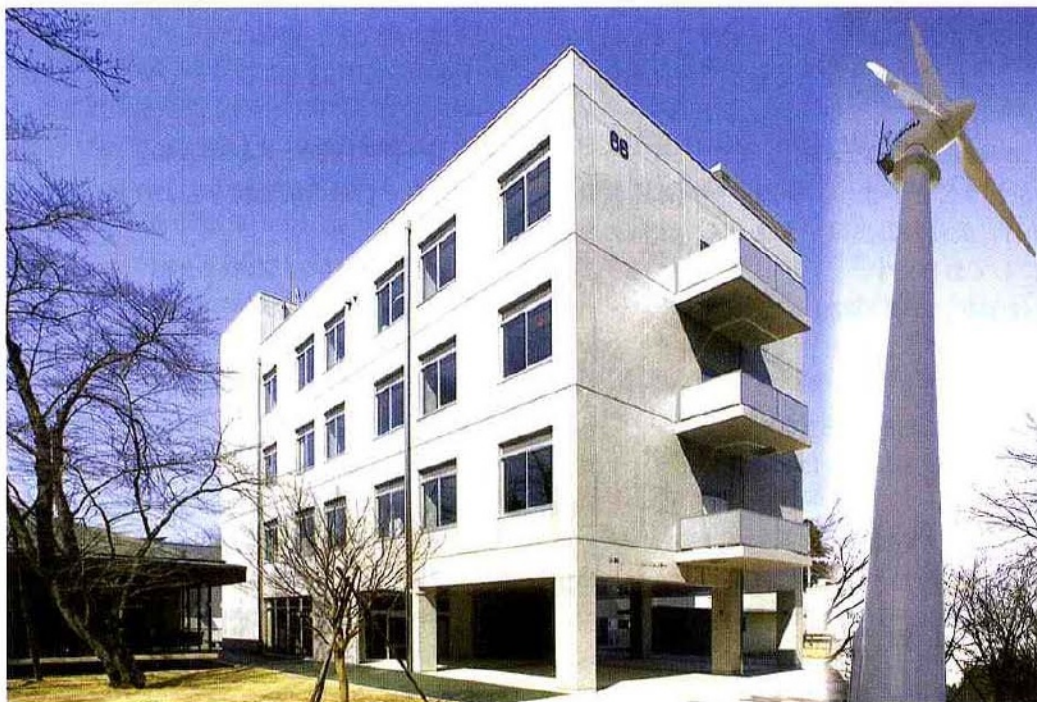
▲改修前の正門



▲新しくなった正門

環境保全・共生共同研究センター完成

前号で紹介された「環境保全・共生共同研究センター」は平成14年度文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業「学術フロンティア推進事業」に選定され、平成15年3月に完成致しました。詳しくは第66号P20を参照して下さい。



校 友 短 信

土 木 工 学 科

- ◇高野信夫（1回卒、福島県郡山市）
22年ぶりに級友に会えると楽しみにしておりましたが、26・27日が会社の研修旅行なので残念です。又の機会に。皆さんによろしく!!（H. 15. 9. 4受）
- ◇武藤忠雄（1回卒、静岡県富士見市）
母校の発展と訪ねる会のご盛会をお祈り申し上げます。（H. 15. 8. 29受）
- ◇西尾正義（21回卒、岩手県一関市）
現在、一関市建設部建設課に勤務しております。残念ですが出席出来ません。（H. 15. 9. 17受）
- ◇峠 和男（21回卒、千葉県八千代市）
歳とともに日大の友人達のすばらしさを感じる今日此の頃です。（H. 15. 8. 27受）
- ◇臼井 進（21回卒、静岡県富士郡）
公務及び選挙重なり、残念ですが28日(日)は欠席です。学部・校友の皆々様の御健康御発展を祈っています。（H. 15. 8. 27受）
- ◇澄川成夫（21回卒、山口県柳井市）
遠路のためなかなか出席が叶いません。退職しましたら改めてノンビリと郡山を訪ねてみたいと思っています。（H. 15. 8. 26受）
- ◇宮崎純治（21回卒、山梨県南アルプス市）
現在山梨でがんばっております。都合がつかず、参加できず残念です。郡山には卒業後数回行きました。日大も大きく、きれいになりびっくりしております。（H. 15. 9. 9受）
- ◇平石博一（21回卒、静岡県富士宮市）
案内ありがとうございます。静岡県が国体開催県で（25日～30日）公務の為出席できません。次回の参加を楽しみにしております。（H. 15. 9. 5受）
- ◇植田清美（21回卒、山口県下関市）
今回は都合がつかず欠席とします。村田先生、諸先生方に宜しくお伝え下さい。（H. 15. 8. 26受）
- ◇永田正一郎（21回卒、埼玉県春日部市）
8月30日の日大工科系校友会にも参加致します。宜しくお願い致します。（H. 15. 8. 26受）
- ◇高山 実（21回卒、埼玉県桶川市）
東京都下水道局で働いています。今年は卒業30年…母校を訪ねたいと思います。よろしくお願いします。（H. 15. 9. 24受）

- ◇天野悟志（31回卒、静岡県浜松市）
残念ですが都合により当日は出席できません。次回を楽しみにしております。ありがとうございました!!（H. 15. 9. 8受）
- ◇藤田一郎（31回卒、滋賀県坂田郡）
卒業して20年ぶりに郡山に行くので、大学も地域も大きく変わっている事と思います。この自分の目で確かめる日を楽しみにしております。（H. 15. 9. 18受）
- ◇鈴木功修（31回卒、山形県山形市）
妻と子供2人（7才、3才）同伴で出席させてもらいたいと思っています。御迷惑をおかけするかもしれませんがよろしく願います。（H. 15. 9. 4受）
- ◇酒井 洋（31回卒、長野県北安曇郡）
関東支部長野県校友会（H13. 3. 17設立）の監事を務めさせていただいております。（H. 15. 10. 1受）

建 築 学 科

- ◇皆川善孝（11回卒、福岡県福岡市）
卒業して早40年が過ぎ、その間仕事の関係で東北出張の折りに学校に3度訪ね、学校も街も当時とのあまりの変わりように大変驚きました。この様な機会に是非参加して旧交を温めたいと思いますが、残念ながら、私は、昨年の暮れに大病を患い、現在も治療中で、長旅は無理です。皆様に宜しく。（H. 15. 9. 25受）
一日も早いご快復をお祈り申し上げます(工学部校友会)
- ◇泉啓一郎（11回卒、熊本県熊本市）
御盛会と皆様の御健勝を心よりおいのりいたしております。（H. 15. 9. 10受）
- ◇佐藤輝利（11回卒、宮城県仙台市）
「卒業後40年目」の文字に改めて、時の流れを感じております。（H. 15. 8. 25受）
- ◇松本英雄（11回卒、宮城県仙台市）
数年前、北心寮・OB「北心会」へ参加した折、学校の変貌には驚きました。今回は、所用のため欠席しますが、機会を得て参加したいと思います。発起人及び工学部の皆様宜しくお願いします。（H. 15. 9. 16受）
- ◇三原真佐雄（11回卒、佐賀県佐賀市）
64才になりましたが元気にしています。（H. 15. 9. 18受）

◇柿本 滋 (11回卒、千葉県八千代市)

校友会、幹事の皆様、事務局の皆様のお手配感謝しております。今回は都合により欠席させていただきます。申し訳ありません。(H. 15. 9. 18受)

◇田中建雄 (21回卒、福島県会津若松市)

10年前に出席しました。又会えるのを楽しみにしています。お世話になります。(H. 15. 9. 22受)

◇窪田 實 (21回卒、静岡県富士市)

工学部卒業生の御活躍を祈っております。出席できないのが非常に残念です。(H. 15. 10. 2受)

◇平川順二 (21回卒、北海道釧路市)

郡山へは15年程訪問しておりません。懐かしく思われます。貴会の益々のご発展をお祈り申し上げます。(H. 15. 9. 16受)

◆水口哲郎 (21回卒、愛知県名古屋)

夫哲郎は平成15年4月25日に他界いたしました。これまでは皆様に大変お世話になり有り難う御座居ました。今回も楽しみにしておりましたので残念です。(令夫人より)(H. 15. 9. 16受)

哲郎君の御逝去を衷心より悼み、ご冥福をお祈り致します。合掌。(工学部校友会)

◇神崎慎一 (21回卒、岡山県久米郡)

前回参加から早くも10年経って訳ですね。今回は残念ですが欠席です。諸兄、皆様のご健康を祈ります。次回は2013年ですか……？是非参加したいものです。事務局の皆様ありがとうございます。(H. 15. 9. 8受)

◇半澤 仁 (21回卒、東京都八王子市)

母校を訪ねる会御招待有難う御座います。会社の都合上参加できないのが残念です。益々のご発展お祈り申し上げます。(H. 15. 9. 16受)

◇佐藤善吾 (21回卒、埼玉県南埼玉郡)

校友会の御連絡ありがとうございます。たいへん申し訳ありませんが、今回は都合がつかず欠席させていただきます。次回は参加させて頂くつもりです。(H. 15. 9. 20受)

◇尾台昇司 (21回卒、群馬県桐生市)

30年ぶりの旧友との再会。たのしみです。年とってわかるかな？(H. 15. 9. 2受)

◇広瀬 (旧姓・早川) 由紀 (31回卒、東京都品川区)

卒業後20年目の再会を楽しみにしています。(H. 15. 9. 29受)

◇永島 昭 (31回卒、神奈川県横須賀市)

単身で大東建託㈱福島支店に勤務しております。東北営業部だけでも他に3名のOBが頑張っています。(H. 15. 9. 12受)

◇榎本一史 (31回卒、東京都日野市)

建築デザイナーとして頑張っております。(H. 15. 9. 5受)

◇近藤一弥 (31回卒、長野県小県郡)

あいにく当日は、仕事の都合で出席できません。独立して設計事務所を開設して3年目。毎日ドタバタしています。(H. 15. 9. 24受)

◇若杉政美 (31回卒、大分県大分市)

建築士会の全国大会と日程が重なっている為、出席できません。残念です。次回は全国大会と日程が重ならなければ出席できると思います。盛会を御祈り申し上げます。(H. 15. 9. 12受)

機 械 工 学 科

◇石田 隆 (1回卒、神奈川県横浜市)

母校の益々の発展を祈念しております。(H. 15. 9. 26受)

◇曾我部喬士 (11回卒、神奈川県横浜市)

元気にしています。町内の体育祭とかちあっているので欠席します。皆様によりしくお伝え下さい。(H. 15. 10. 6受)

◇酒井勝雄 (11回卒、福島県福島市)

都合により残念ながら欠席いたします。今年から「TC溶接技術支援室」を開業しております。皆様によりしくお伝え下さい。(H. 15. 8. 30受)

◇杉山茂径 (11回卒、神奈川県横浜市)

同期生の会えることを楽しみにしています。(H. 15. 9. 8受)

◇平部延幸 (11回卒、長野県千曲市)

久しぶりに訪問できることを楽しみにしています。(H. 15. 9. 2受)

◇滝口武志 (11回卒、千葉県佐倉市)

同日「はぐるま会」も併催されますので、いづれも楽しみにしております。(H. 15. 9. 16受)

◇島 忠雄 (11回卒、愛知県知立市)

母校を訪ねる会には初めて参加させていただきます。楽しみにしております。(H. 15. 8. 30受)

◇石橋忠夫 (11回卒、静岡県静岡市)

大変楽しみにしております。よろしく願います。(H. 15. 9. 5受)

◇織田三朗 (11回卒、静岡県沼津市)

我々機械11回卒“はぐるま会”は平成12年に母校を訪問しておりますが、それ以来で楽しみにしております。

(H. 15. 9. 5受)

◇黒木洋一 (21回卒、宮崎県宮崎市)

只今宮崎県日本大学工科校友会幹事長、日本大学校友会宮崎県支部常任幹事、宮崎県日大高校評議員、宮崎日大高校同窓会副会長をやっています。来年は長男が日大文理にゆく予定です。

(H. 15. 9. 8受)

◇赤羽克文 (21回卒、長野県諏訪市)

ただいま中国に長期出張中です。皆様によりしくお伝え下さい。

(H. 15. 9. 18受)

◇大野利和 (21回卒、長崎県南安曇郡)

10年前の前回参加できなかったもので、楽しみで、喜んで、参加させていただきます。恩師始め皆様にお会いできること、心待ちにしています。

(H. 15. 9. 19受)

◇對川博文 (21回卒、広島県安芸郡)

この様な企画をくんでいただき本当に感謝しております。これからも宜しく願いいたします。恩師や友人にお会い出来るのが楽しみです。

(H. 15. 9. 3受)

◇木口美貴雄 (21回卒、山梨県中巨磨郡)

大変楽しみにしております。校友会の方々には、ご苦労お掛けしますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(H. 15. 9. 4受)

◇鳥山繁雄 (21回卒、青森県八戸市)

案内をいただきありがとうございます。知っている方々がたくさんおられてなつかしい思いですが、ちょうどその日と前日に、学校行事があり生徒をつれていなくてはならぬ参加できません。皆様によりしく願います。

(H. 15. 8. 30受)

電 気 工 学 科

◇高野弘世 (1回卒、福島県福島市)

久しぶりの訪ねる会楽しみにしていました。喜んで出席させていただきます。

(H. 15. 8. 25受)

◇飯田玉樹 (11回卒、東京都清瀬市)

卒業後初めての訪問です。なつかしく参加させて戴きます。よろしく。

(H. 15. 9. 19受)

◇坂井孝史 (11回卒、静岡県下田市)

どうしても都合が出来ませんでした。皆様の元気な姿を見たかったんですが!! 40年前と今では、顔、そして学校…かわったでしょうね。

(H. 15. 9. 19受)

◇島越政信 (11回卒、東京都練馬区)

大学で学んだ弓道で第2の人生を楽しんでいます。同好会から始まり、部迄昇格させたのが誇りです。

(H. 15. 8. 29受)

◇前田康久 (11回卒、千葉県若葉区)

ご案内有難うございます。大変楽しみにしておりました。2回目の訪ねる会を待ちかねておりました。

(H. 15. 9. 4受)

◇山崎雅邦 (11回卒、広島県安芸郡)

日新製鉄(株)は平成8年に退職し現在関連企業の呉重車(株)の専務取締役で頑張っています。

(H. 15. 9. 4受)

◇田中一弘 (11回卒、神奈川県横浜市)

先約があり、今回出席できなく残念に思います。母校が益々発展して行く事は大変嬉しい事です。これからもより発展される事を願っています。

(H. 15. 10. 3受)

◇千葉忠孝 (11回卒、東京都台東区)

10月23日からの海外旅行予約しており、残念ですが、欠席させて頂きます。卒業後、就職した会社では特許・開発製品化で実績を上げ、貴校での基礎の勉強を生かせたと思っています。北心寮の楽しい思い出がなつかしいです。

(H. 15. 9. 2受)

◇野口和彦 (11回卒、守谷市)

定年も過ぎ大過なく過ごしております。これも4年間お世話になったお陰と感謝致します。

(H. 15. 9. 4受)

◇萩野 栄 (12回卒、東京都世田谷区)

応援団に入り人前に出る事が出来ました。今は団員が少なく心苦しく思っている今日今頃です。復活をかけ一部運動している様です。校友会の応援をお願いします。

(H. 15. 9. 22受)

◇郡司正孝 (12回卒、福島県郡山市)

現在、非常勤講師として、土曜日に一つの講座を担当しています。母校の発展充実に祈っております。

(H. 15. 9. 30受)

◇佐々木章 (12回卒、福島県郡山市)

地元在住のため、折りにつけ出掛けております。昔を懐かしく思い出しますが、同時に時の流れの速さを痛切に思い知らされています。

(H. 15. 9. 16受)

◇谷口春巳 (21回卒、茨城県下館市)

30年ぶりの再会、楽しみにしております。

(H. 15. 9. 25受)

◇矢口博文 (21回卒、長野県大町市)

楽しみにしております。久しぶりの郡山は変わったのでしょうか。

(H. 15. 9. 16受)

◇和田一穂 (21回卒、茨城県那珂郡)

校友会報で学部状況を拝見しております。前回(20年目)は都合で急ぎょ行けなくなりましたので、今回は是非参加したいと楽しみにしております。

(H. 15. 9. 10受)

◇遊佐喜一 (21回卒、福島県福島市)

日程の都合を調整しているうちに9/30を過ぎてしまいました。今回は残念ながら欠席します。息子も現在電気3年です。

(H. 15. 10. 3受)

◇奥村 薫 (21回卒、愛媛県松山市)

本校を卒業して30年が過ぎ、今回母校を訪ねるのを楽しみにしていましたが、会社より、国立大学の工学部で10月より非常勤講師をする様指示されたため、その準備に忙しく、今回は残念ですが欠席します。私の担当は、後期授業であるため、来年の春頃に校友会を訪ねたいと思っています。

(H. 15. 9. 5受)

◇長谷川春雄 (21回卒、新潟県西蒲原郡)

残念ですが、今回は、海外出張中の為欠席させていただきます。

(H. 15. 9. 2受)

◇藤田浩司 (31回卒、北海道岩見沢市)

体育会・ボディビル部がなくなったと聞き、たいへん残念に思っています。後輩に会うこともできなくなりました。

(H. 15. 10. 8受)

◇河合宏紀 (11回卒、東京都大田区)

同期の工業化学科は確か20数名と少なかったのですが、相互の連絡が途絶えてしまっています。この機会に出来るだけ集まれば、と思っています。

(H. 15. 9. 2受)

◇高梨誠一 (11回卒、栃木県那須郡)

この度仕事をすべて止めて郷里に帰ってまいりました。今後の通知は新しい住所にお送り下さい。

(H. 15. 8. 30受)

◇菊池信行 (11回卒、岐阜県可児市)

校友会報いつもじっくり読ませてもらっています。

(H. 15. 10. 1受)

◇齋藤 清 (31回卒、神奈川県茅ヶ崎市)

当日恩師の高木先生、吉川先生に会いたいです。そして31回卒の仲間と再会したいものです。

(H. 15. 9. 24受)

◇森山 丈 (31回卒、宮城県塩釜市)

卒業後20年になりますが、当時を振り返り、新たな20年の始まりとしたいと思います。

(H. 15. 9. 1受)

◇荒川和浩 (31回卒、栃木県鹿沼市)

現在、中国工場勤務です。上海、広州とかけ回っています。中国でも日大出身者との出会いがあるとうれしいですね。

(H. 15. 10. 3受)

(順不同、敬称略)

工業化学科

◇杉原 潤 (1回卒、埼玉県さいたま市)

御案内有難うございます。生涯学習の講師をして元気でやっております。今回は仕事の都合で欠席させていただきます。申し遅れましたが、いつもお世話様になります。母校の発展を祈ります。

(H. 15. 8. 29受)

編集委員会からのお願い

校友会事務局へのお便りや連絡などから、無断で掲載しました。限られた紙面のため、全文をご紹介できないものもありましたが、ご了承下さい。



キャンパスマップ

應援團復活!!

OB会 会長 深 野 一 男 (土木20回卒)

事 務 長 永 田 直 史 (機械29回卒)

工学部應援團は、平成9年より団員の減少から應援團活動を停止しておりましたが昨年の『母校を訪ねる会』の校歌斉唱のリーダ公開を機に復活いたしました。

常々、應援團を復活させたいという思いは当然OBとして抱き続ける思いでありましたし、又、幸いにも日大工学部校友会の諸先輩より應援團復活の声を常々いただいております。そして平成13年6月16日に開催させていただきました体育会OB会「北心会」の25周年記念式典を機に應援團復活の機運が一気に高まりました。

昨年の6月に武道関係のOB会長の方々より、『体育会系のセンターボールとして應援團の存在が絶対必要』との強い要望があり、『母校を訪ねる会』を目標に各武道関係のOB会長、体育会常任委員会の協力を得て復活活動を行ってまいりました。

去る10月26日、秋も深まった郡山において開催されました『母校を訪ねる会』にて小野沢工学部長、高松事務局長のおかげによりまして應援團OB、各体育会OB会長並びに校友の前で校歌斉唱のリーダ公開をさせていただきました『母校を訪ねる会』に出席されました全員から感動の拍手と應援團に対しての『声援』をいただきました。

最後に今後の團活動は、昔の應援團のイメージを脱し『学校、先生、学生、そして社会』に愛される應援團を目指していく所存であります。



応援団OB会のお知らせ

日 時：平成16年3月27日(土) 18:30～

会 場：池袋サンシャインプリンスホテル

連絡先：

事務局 永田直史



工学部校友メンター登録のお願い

工学部 校友会会長 **加藤木 研**

工学部 就職指導委員長 **藤 本 洋**

工学部就職指導委員会では、学生に「最適な職業の選択」をさせるために、各分野で活躍されている校友の皆さんが学生の相談相手になって頂く「校友メンター制度」を「CS-Navi（就職用ホームページで工学部内のみアクセス可能）」のサイト中に開設したいと考えています。

「校友メンター制度」とは、校友の皆さんにご自分の勤務先、連絡先、相談可能事項などを工学部に登録して頂き、業界の状況や動向、仕事の内容、求められる能力など、学生のキャリア形成や就職先企業選択に関して相談相手になって頂くものです。

勿論、個人情報の取扱いに付きましては、外部に漏れることが無いようなシステムを構築します。何卒、校友の皆さんには趣旨をご理解頂き、後輩のために積極的なメンターのご登録をお願い申し上げます。

ご登録、ご情報、ご意見は以下までお知らせ下さい。

〒963-8642

郡山市田村町徳定字中河原1

日本大学工学部 就職指導課 課長

吉 田 廣 幸

Tel: 024-956-8643 FAX: 024-956-8871

E-Mail: yoshida@ao.ce.nihon-u.ac.jp

校友会ホームページとメールのアドレスが変わりました 各支部のホームページも掲載します

この度、校友会では工学部からアドレスを頂き、工学部のホームページから校友会のホームページにアクセス可能となりました。

今後は各支部および各県支部のホームページにもリンクできるシステムにしたいと考えております。そこでリンク希望の支部または県支部は、作成されたホームページの原稿を、メールの添付ファイルまたはMOあるいはFDファイルとして事務局にお送り下さい。これは工学部ホームページのセキュリティ管理上、工学部校友会からは直接Webサーバーへのファイル転送および変更・削除等が出来ないためです。

また、工学部のホームページを使用しますので、作成されるホームページの内容は、工学部に損害・不利益・

迷惑等が生じないものが望ましく、従って、企業PR・社会規範に反する事柄・個人のPR情報に関する内容のものは厳しく制限されます。

さらに、各支部または各県支部から他サイトへのリンクについても許可されませんので、この点にご留意してホームページを作成して下さい。

ホームページに関するご情報、ご意見は以下までお知らせ下さい。

●校友会ホームページ

<http://www.ce.nihon-u.ac.jp/kouyu/index.html>

●校友会メールアドレス

E-Mail: info@kouyu.ce.nihon-u.ac.jp

住所変更もメールで受付ています。

〒963-1165

郡山市田村町徳定字中河原1

日本大学工学部 校友会事務局

薄 井 三恵子

TEL & FAX: 024-944-1327



日本大学工学部校友会各位

平成16年 3月1日
校友会会長 加藤 木 研

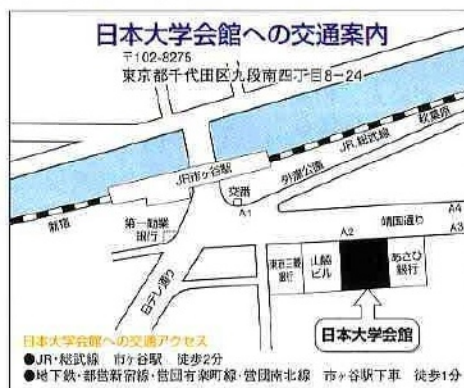
平成16年度 通常総会通知

本学会則第13条により、日本大学工学部校友会平成16年度通常総会を下記の通り開催いたします。皆様には年度始めにあたりご多忙とは存じますが、先輩・後輩お互いにお誘い合わせの上、多数ご出席下さいますよう、ご通知申し上げます。

記

1. 日 時 平成16年 5月8日(土) 14時より
2. 場 所 日本大学会館(市ヶ谷)
3. 議 題 (1)平成15年度会務報告および決算報告
(2)平成16年度事業計画および予算審議
(3)その他
4. 懇親会 総会終了後、同所において開催

以上



第24回 母校を訪ねる会

- 日 時 平成16年10月24日(日)
- 場 所 日本大学工学部 50周年記念館
(ハットNE)を予定
- 対 象 第2回卒業生(昭和29年3月卒業)
第12回卒業生(昭和39年3月卒業)
第22回卒業生(昭和49年3月卒業)
第32回卒業生(昭和59年3月卒業)

今回は上記年度の卒業生が母校訪問の主たる対象となりますが、対象年度に関わらず、是非とも多数ご来校下さい。大きく発展・成長した母校をご覧いただき、恩師や級友との再会に懐かしい一時をお過ごし下さい。



校友会報 第67号

発 行 者 日本大学工学部校友会
福島県郡山市田村町徳定字中河原1
郵便番号 963-1165
電話番号 024-944-1327
FAX番号 024-944-1327
E-Mail: info@kouyu.ce.nihon-u.ac.jp

発行部数 45,000部
発行日 平成16年 3月1日
発行代表者 校友会会長 加藤 木 研
編集責任者 編集委員長 長澤 幸二